平成１７年１２月６日　火曜日　　第４３号

佐事研だより

佐賀県公立小中学校事務研究会
編集発行人　森　清隆

会員各位

会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。１１月の中旬に入ってから朝晩冷え込んでおります。皆様も風邪など引かぬようお気をつけください。

第１９回研究大会のアンケート結果の集計ができましたので掲載しております。今回も好評で特に県外の方の参加者が多くアンケートもたくさん提出していただきました。なお、理事会報告は、常任理事会後（次週）開催予定のため次号に掲載いたします。加えて全事研予算調査のご協力ありがとうございました。

第１９回佐事研大会アンケート集計結果報告

１１月８日、第１９回佐賀県公立小中学校事務研究大会の際に大会アンケートを実施させていただきました。今回はコメント欄にたくさんの記入がありました。嬉しいのか大変なのか。おかげさまで集計ができましたのでご報告いたします。なお、コメント欄については、基本は原文どおりに入力しておりますが変換の関係等で文字等を変えている箇所があります。ご容赦ください。○囲みの数字は会場の番号です。

第１９回大会アンケート集計表

年代	２０代	
回答	研究部発表	会員討論
大変よかった	7	7
良かった	12	8
普　通	1	3
良くなかった	0	0

年代	３０代	
回答	研究部発表	会員討論
大変よかった	5	8
良かった	24	18
普　通	5	7
良くなかった	0	1

年代	４０代	
回答	研究部発表	会員討論
大変よかった	3	6
良かった	26	20
普　通	9	11
良くなかった	1	0

年代	５０代	
回答	研究部発表	会員討論
大変よかった	11	9
良かった	14	14
普　通	4	7
良くなかった	1	1

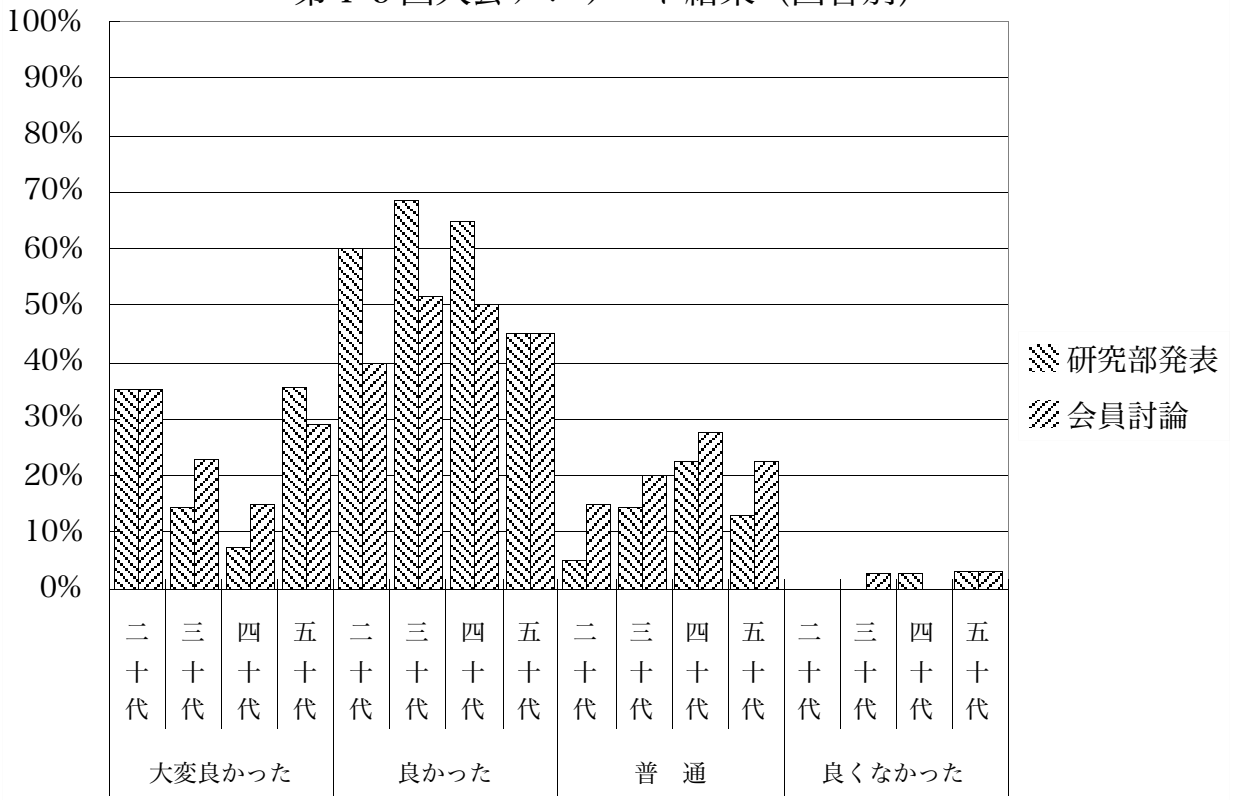
年代	合　　計	
回答	研究部発表	会員討論
大変よかった	26	30
良かった	76	60
普　通	19	28
良くなかった	2	2
合　計	123	120

ｱﾝｹｰﾄ提出数	126
内数(県内)	103
内数(県外)	23

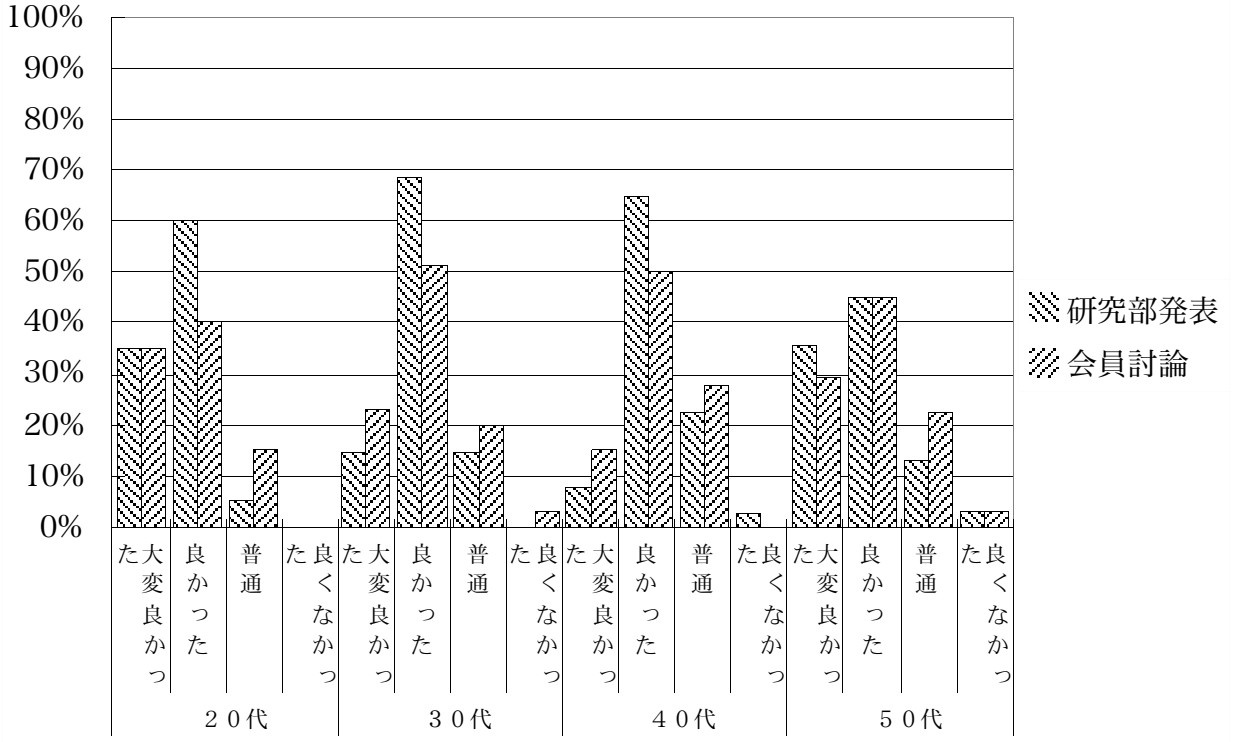
（一部無回答有）

参加者数	246
内数(県内)	209
内数(県外)	37
回収率	51.2%

第１９回大会アンケート結果（回答別）



第１９回大会アンケート結果（年代別）



研究部発表コメント

県内

20代：各研究部毎に細かく分析されており、大変勉強になりました。それぞれの成果を日々の公務に取り入れていきたいと思います。

20代：古川事務長のお言葉はいつも身が締まる思いになり、大変ためになります。ただ、事務研究大会の内容文を読みくだいた後、各班のお話を聞きたく思いました。そうすれば、お話の内容もより理解でき、良い研修になると思いました。家に帰ってしっかり読みくだきます。

20代：今はまだ毎日、目の前の仕事をこなすだけで精一杯ですが、多くの事務長先生方はいろいろと事務職員として考えられていることがわかり刺激になりました。

20代：大変勉強になりました。

20代：事務職員が存亡の危機にあることは分かるが、その生き残る道が共同実施のみに求めている気がした。共同実施の他に代替案がないのか考えるべきと思う。また共同実施をやるにしてもその内容を具体的に提案してほしい。やっても価値がない、または価値が少ない共同実施は遠慮したい。

30代：各班ともにきちんとした問題提起のもとで研究をされているのがよく分かった。日々の業務の中で疑問に思うことをより深く推し進めて頂いている研究部の活動は佐事研の柱だと思う。

30代：古川事務長のお話には何度も頷いた。先の見えない状況だからこそ、事務長クラスの方々には一丸となっていただきたい。学校現場には部下は居なくとも、県内各地の事務職を育て、道を開くのも大きな任務ではないでしょうか。よろしくお願いいたします。

30代：古川先生の話は、とても勉強になりました。その他はもう少し・・・と思った。パワーポイント等の活用があれば尚良いのでは？

30代：共同実施に取り組んでいる成果などを生き生きと語られて良かったです。事務処理マニュアルの資料は大変役に立つと思われます。人づきあいを上手くして仕事も円滑に行うことの主張に納得しました。

30代：今回の佐事研大会で、なにか大変な事になっていってるなぁ・・・と、不安になりました。欠員補充で大規模校にお世話になってますが、佐事研ビジョンの話しが聞けて一年という期限付きですが勉強したいと思いました。

30代：事務処理マニュアル開発研究班の研究成果がでていない。班員が集まった回数が少なく、成果がでないのは、あたりまえ。

30代：資料がとてもよかった（内容）。

30代：内容はともかくとして続けてどんどん発表されて、ついて行くのがやっとだった様な気がする。時間的には無理だったとは思うが、１回１回質問の時間を取ったほうが、気持ちの切替が出来て良いのではないだろうか。

30代：時間が短すぎた。３年間の成果を発表するのだから１班１時間くらいないと伝わらないのではないのでしょうか？

30代：おつかれさまでした。

30代：古川先生の発言については、いつもエネルギーを感じます。刺激をうけました。

30代：日々の仕事が忙しい中で研究をされ、成果を出されていることに敬意を表します。この成果を自分の仕事に生かしていければと思います。

30代：研究部成果発表について、佐事研ビジョンは、大変刺激になった。しかし、いつも高い意識（モチベーション）を持つということが難しいことだとしばしば思う。

40代：義務制の事務職員として学校教育に貢献して行きたいと思いを強くはした。

40代：途中に休憩を入れるようにしてもらいたい。

40代：まだまだ不勉強でここ数年の流れや問題点などわからないことだらけです。成果発表の内容もわかったのは半分くらいというところ、配られた冊子の様々な資料は価値が高いと思います。

40代：もっと時間をとってもよかったと思う。

40代：佐事研ビジョンの中で古川さんが言われた”危機感”という言葉に同感である。学校現場で管理職が危機管理について発言されるが職員に本当の意味で理解されているのか疑問である。意識改革が必要である。

40代：ここ数年の動向、活動がわかり良かった。現実は厳しくまだまだ流れに追いついてないと思えました（自分の仕事に対する姿勢が・・・）。

40代：情報研究班とかは、何をやっているかわからなかった。

40代：各班とも大変な作業をまとめていただきありがとうございました。活用させていただきます。

40代：研究部の成果がこうした形式で発表される事は有意義と思われます。集大成という感じで濃い内容を一気に発表された為盛り沢山な内容でした。できれば、毎年、小出しに発表し、密度をバランス良く・・・と思うのですが。

40代：各研究部それぞれに活動成果が報告され頭が下がります。私たち全員はそれぞれの成果や投げかけられた問

題点を真剣に受けとめて日々の業務を行っていかなければと改めて思いました。

40代：それぞれの班が良く頑張っているなあと感じます。学校現場の仕事の他に班（佐事研）を盛り上げているのは大変な力です。有難うございます。

40代：お疲れ様でした。

40代：共同実施の将来はセンター化、合理化への道だと思います。公務員改革の流れの中で、なぜ、今進んで共同実施をしなければならないのか、疑問に思う。

40代：発表数が多くそれぞれの時間が短く不満だった。

40代：共同実施について（職の合理化への道云々というのはさておいて）未だに疑問。集中化⇒効率化は職自体の性質上２重に処理を行うことが多く実効性が薄いと思う。分業化による効率化ならまだ分かるが、これはまさにセンター化していないと意味がない。そういった方向ででも効率化を求めるのであればそれでかまわないが、自分としては学校事務職員は学校に居てこそ、それぞれの学校教育に対応し、寄与することができると考えるので、そういう方向にいってほしくない。昨今の多忙化の一因は会議等が多いことだと思う。センター化以外の共同実施は組織として機能するのは構造的に限界があり、どうしても会議・ミーティング主体のものとなりがちで、今まで個々の事務職員の頭の中で処理されていたものをわざわざ外に持ち出して手間と時間をかけているだけのように思う。効率化を求めるなら、誰でも簡単に使える、リアルタイムに対応したマニュアルとＦＱＡ（特にこれが必要だと思う。全県のありとあらゆる実例に基づいた情報を集約したものがあると良いのだが。ただしこれがあれば事務職員はいらなくなるかもしれない）を整備することのほうがはるかに有効であると思う。共同実施ははっきりいってその効果的な理念（？）”学校教育のため？”とはまったく関係ないところで（実は本当にそれが目的だったりして）利用しようとしているところに何かむりやり感、ねじれ感があって、「何のためにやるの？どう効果が望めるの？」という疑問が常につきまとってしまう。それは現在のところ（県外はよく知らないが）、その明らかな効果が、希望的観測を含めて、報告されていないところからも云える（ついでに「共同実施はダメだ」という意見が表立ってでてきていないところから、この件について、真剣に討議がされていない、もしくは「お役所仕事」に過ぎなくなっているように思う。「共同実施に反対すれば公務員改革（合理化）に対応できるのか」という言い方はひきょうだと思うが、そのとおりだと思う。なので、「共同実施をせいぜい利用して、もし一刀両断で合理化されても『やれるだけのことはやったさ』といえるようにがんばろう」と言われれば、そりゃもう「共同実施賛成」です。

50代：内容が多いので、事前に資料を配布して検討をする時間をあたえてもらえたらと思います。ついつい不消化になってしまう。

50代：各班長、班員の皆さんお疲れ様でした。

50代：古川さんの話で大阪のセンター成果の話が出ましたがその手法を是非紹介して下さい。何かヒントになると思う。

50代：いつ聞いても古川治事務長の話はおもしろい。

50代：忙しい中、地道な研究活動があって成果があるんだと思う。御苦労様でした。特に小川研究部長さん御苦労様でした。

50代：今、事務研でどのような取り組みがされているかがわかり大変よかった。

県外

20代：佐事研ビジョンの話はとても参考になりました。現実に差し迫った問題がよくわかりました。時間が短かったせいか他の研究班の発表があまり印象に残らなかったのが残念でした。

20代：研究の期間が３年間と長いスパンで細かな研究がなされていると思った。共同実施や県とのメールのやり取りなど先進的な佐賀県が次、何を研究されのか楽しみである。事務情報研究は基本的職務の問題点が顕になった。

20代：とても身に迫る思いでした。私は採用されて今年度で７年目になりますが、共同実施はもうすぐ目の前に来てしまったんだなぁと思いました。

20代：今後の見通しを持ち、研究をして行かれていることに感動しました。もう少し各班の発表時間があればより分かりやすかった（深まりがあったかな）と思いました。

20代：事務職員として危機感は感じていましたが、今日の話を聞いて自分が変らないといけないと思いました。いろんなことを発言してアピールしなければと思いました。

20代：共同実施・標準職務等々を佐賀県の自治体が非常に力を入れていることがよく理解できた。特に市町村合併によりどのように変ったかについては大変関心深い内容だった。

20代：共同実施の詳しい中身が聞けて良かった。

20代：佐賀県事研での研修内容への具体的取組を知り、いかに事務職員としての職務の堅持が難しいか、また、そのために佐賀県事務職員の皆さんがいかに真剣に取り組んでらっしゃるかを知り、危機感を覚えるとともに、心強く思いました。

30代：各県での研究部の在り方、研究内容の違いはあると思っていたが、初佐事研の発表には驚きの連続でした。

皆さんの意欲的な態度を見せていただき非常に勉強になりました。
30代：それぞれの部の内容が充実していたと思います。特に佐賀県ビジョンは、再度、今の現状を認識しなければと思わされました。
30代：今、事務職員がおかれている状況や将来性について再認識させられました。
30代：佐賀県ビジョンの話、ビシバシ身にしみて聞き入ってしまいました。
40代：ビジョン班の古川先生の発表は、これからの我々がどうすべきか、良いヒントになりました。福岡県も全県で共同実施が、１９年度をめどに目標として実施されようとしていますので。
40代：深く研究しておられてすばらしかったです。県内での研修組織の確立ができているからでしょうか。わが県ではまだこういう組織化ができておらず各支部での研修止まりになっています。
50代：佐事研の皆様が、積極的・意欲的に研修を重ねてあるのがよくわかりました。又、明日から頑張りたいと思います。
50代：内容が盛りだくさんで時間が足りないようだ（発表者が）。

会員討論コメント

県内

20代：全員の意見が聞けて良かったです。事務職員がおかれている現状も確認する事ができました。掘り下げた話まではいきませんでしたが、今後の自分の方向づけが出来たと思います。③
20代：発言する（積極的に）人が少ない会場だったので、ワイガヤの雰囲気がなくて寂しい感じがした。③
20代：他地域のお話や考え方にふれられてとても勉強になりました。義務制から市町村教委や県立の事務長になられた方がいるのを知り、とてもはげみになります。③
20代：共同実施、行っていないのでよくわからないですが、話をきいて、良し悪しがあることがわかった。事務室提案を作っている先生が多いことがわかり、また新しいことを知ることができた。確かに目標があることで仕事への正確さが増したり、改めて仕事を自覚できると思います。⑦
20代：手探り状態のままなので、いつも皆様の意見で勉強させて頂いております。①
20代：共同実施について必要性が高いのはわかるが、共同実施の中身について果たしてこれが効率的事務なのかと疑問に思うこともある。いかに、県民に認知してもらえる学校事務であるかと念頭におかなければ一人よがりになってしまうのでは？①
20代：共同実施は考えれば考える程わからなくなってしまう。自分の中でやらなきゃいけないという気持ちの整理ができていないので、どうしても動こうとできない。①
20代：鳥取ショック、共同実施など、今話題とされていることについての色々な意見が聞けて、大変な勉強になりました。①
30代：今日は諸先輩方々の意見が聞けてよかったです。①
30代：当初の予定では全員参加で討論ということだったけど、司会の方が今イチでこちらが発言したい時に発言できなかった。討論に入る前にきちんとした流れを説明していればもっと活発な論議が出来たのでは。③
30代：学校現場では単独職。今回のような機会をより多く持って、共通理解を深め、長所・短所を含めて現状を共有していきたい。新参者にも意見を述べる機会を与えてくださったことも有り難かった。③
30代：いろいろな意見が聞けてよかった。でも人の発表のときに私語をする人がいて迷惑だった。マナーは守ってほしいと思った。③
30代：いろいろ考えさせられました。みなさんの考えや意見を伺えて、勉強になりました。③
30代：佐賀県は共同実施の加配の有るグループ・無いグループとあり兼務辞令があるグループ、ある事務職員と色々な事例のあることを知った機会でした。福岡や熊本から参加された方は佐事研ビジョンの迫力に圧倒されていたようです。ビジョンを持つことは大切ですね。⑦
30代：事務職員の教員でいう初任研みたいな研修は３日程と聞き、わたしみたいに臨時でポンと何の未経験もないものが、引き継ぐ間も無く席におかれたらものすごく迷惑をおかけすることになります。力不足もくやしいし・・・。先生方の人数も多く、いろんなケースがあって対応される事務長をみて少しでも力になりたいと思ってます。でもレベルが低くそういった面では、共同実施はありがたい場だと本当に思いました。今できることをしていきます。みなさんが近寄りやすい事務室に。①
30代：意見交換に終わった気がする。もっと討議内容をしぼって順番に討議した方がよかったと思う。話しがあっちこっちとんでまとまらなかった。（共同実施→学校運営参画→給料→共同実施のように意見がバラバラ）
30代：むずかしい内容の討論だったが、いろんな話しをきけてためになった。①
30代：反対意見が出ないのでいま一つ盛り上がりに欠けた（笑）。内容・進行等は順調に行って良かったと思う。⑥
30代：会員討論ってどんなことをするのだろうと思っていたが、学校経営への参画をはじめ、いろいろな意見考え方がきけて勉強になりました。厳しい局面だけどいい知恵をだしあい乗りきっていきたいですね。

30代：ちょっと重いテーマで・・・。
30代：討論で結論はでなかったが、他地区の方々の個人的な意見をきけたことが大変よかったです。④
30代：共同実施を実際やっているところの話しを聞けたのは良かったと思う。
30代：司会進行の先生、本当にお疲れさまです。皆さん必ず何らかの意見を持っているはずですが、なかなか人前で発表するのは難しいですね。※主事・主査・事務長で仕事や責任を区分・明確化した場合、各校に１人だと学校間格差とならないのか、最近疑問に思ってます。①
30代：共同実施の中に、いかにリーダーを作っていくのかということが、一番の問題だと思った。⑤
30代：いろいろな意見を聞けて勉強になった。⑥
40代：ひとりひとりの意見が聞けて参考になりました。
40代：意見がたいへん多く出て、聞いていて楽しくすごせました。司会の方の進行がすばらしかったです。ありがとうございました。④
40代：皆さんベテランで考え深く、これからの学校職員がどうあるべきかのビジョンを持っておられるようでした。ただ、どうしても切り捨てられる部分があるというか弱肉強食の世界になってしまう予想がつくので言い出しにくくていらっしゃるのかな、と思いました。財政もいよいよ厳しくなるのでしかたないのかなと私は思いますが・・・。⑥
40代：全員の意見が聞けた。③
40代：他県からの参加もあり、いろいろな意見が聞けてよかった。⑦
40代：共同実施についての県内・県外の状況がわかって参考になりました。⑦
40代：共同実施の在り方について又考えさせられました。”事 ムの下請けではない”という言葉が心に響きました。 ”学校経営の参画”というものへの道のりが遠くに思えます。 事ムを簡略化させる事、先生の事ムの軽減を考えていた自分が未熟に思えます。⑦
40代：全員１発言をきっちりやられた。⑦
40代：討論形式の方が良かったと思う。司会者と観客というような立場になってしまうので、小さな会場が良いのです。①
40代：佐賀県で共同実施校が多いのにびっくりしました。①
40代：１人１発言を徹底していただいたので、発言するにしてもまとまりがない点もあったが、発言させていただきありがとうございました。
40代：一人一発言・・・の基調で、もっとまんべんなく皆が話していれば良かったのですが、いきなり当てられて慌ててしゃべって長々しく意味不明な事を口走ったような気がして怖かったです・・。討議の柱ごとに意見集約を区切って欲しい。散漫に捉えてしまってうまく話せるか。⑥
40代：多くの事務長クラスの意見が聞けてよかった。私としては今ある職務標準表がだれにでもあてはまる（主事から事務長まで）表なので縦割り（職名にあった権限・職責を明記）することで一般社会にも受けいれられ又、共同実施で組織化することで権限委譲もスムーズに行えるのではないかと思う。⑥
40代：ザッくばらんな雰囲気が少し出て来た時に終わりに近づき残念。しかし全員の意見が聴けたのは良かった。中々難しい議題であった。⑥
40代：各地区の状況や考え方がわかったような気がする。危機感は誰も同じようだ。④
40代：なごやかで良かった。④
40代：共同実施、賛成反対いろいろな話が聞けてよかった。①
40代：「共同実施」は合理化のためのあぶり出し（かもしれない）で、カウンターとしてネガティブキャンペーンに利用する、というのが正しい、ということがわかった（よくわからないまま、あおられるのが一番怖いような気が・・・）。その後平片事務長の話を聞いてなるほど（「権限がないとダメ」というところ）と思いましたが、よけいに分からないという感じにもなってきました・・・。とりあえず今やってる「共同実施」は目標がはっきりしてない分不十分な感じはわかりました。
50代：これが一番ＯＫだと思う。全員の声を佐事研ビジョンの中にいかして、ゆくことである。⑦
50代：最初はなかなか意見も出なかったが、後半の１人（校）１発言では、自校では気付かない、又経験していない事柄を聞けて良かった。状況は刻一刻変っていくので、会員討論は今後とも続けて行って欲しい。③
50代：一人一人の意見がでて良かった。①
50代：少なくとも一人一発言は必要であるし、自分の意思表明をしないと次につながらない。これをマネジメントの手法でやるともっと全員参加型になると思う。①
50代：この討論の結果が、今後どこにどのように反映されるのでしょう。還元される機会がありますようにと願います。
50代：まとめを振られたのは困りました。
50代：皆さんよく発表しておられ、得るもの多数ありました。①
50代：いろいろな意見や仕事に対する各人の思いが聞けてよかった。①
50代：長すぎたがそれなりに良かった。

50代：討議の柱をへらし、少数のテーマのもと、もっと意見を聞いてもよかったのでは。①
50代：大ホールでの分科会のせいか、雰囲気的に意見が出しにくいのか、もうひとつ盛り上がりに欠けた様な気がした。（自分も含めて）司会の方に申しわけなかったです。
50代：フランクな意見交換ができた。②

県外

20代：いろいろな意見・情報が出て参考になりました。また、意欲もわいてきました。しかし私の経験不足かもしれませんが多くの意見がまとめきれず結局消化不良をおこしたような気がしました。⑦
20代：佐賀県の共同実施について、よく理解できた。メリット・デメリットがあることと、行う意味はアウトソーシングを防ぐための予防策としか見えない。しかし、そういう中で佐賀の事務職員の先生方ががんばっていらっしゃる姿を県外にどんどん発言して欲しい。⑦
20代：課題に対して、会場の参加者全員で話し合える体制にとても良いと思います。発言出来るような知識も実践も自分にはありませんが、今後自己アピールが必要な事ム職員には、一人一発言以上！！！という形は有効であると感じています。（緊張しますが・・・）⑦
20代：いろんな意見が聞けて、これから事務職員としてどうやっていくべきか考えさせれました。①
20代：佐賀県の自治体は、加配のあるなしにかかわらず、何らかの形で共同実施に力を入れており、共同実施に対してはかなり積極的だと感じた。福岡県の共同実施は立ち遅れている感があるが、佐賀県の例が参考になればいいと思った。⑤
20代：県外から来たため、みなさんの話を聞けたことは良かったが、なかなか、共同実施等について私自身知識が少ないので少し難しかった。
30代：司会者の全体を見回しながらスムーズに進行されていたのでとても良かった。「参加型」全員討論も活発に行われ、とても有意義な時間であり、皆さんのメモを必死でとられる様子に佐事研の明るい未来がある様に感じられました。⑦
30代：鳥取ショックからはじまった共同実施の話では、最初、管理職を作るための共同実施を作ろうとしているのかと感じました。私が行政の人間ならまず統合を考えます等きいたときは、自分も同じ考えだと思いました。
30代：八女市も来年、共同実施のモデル校になりそう、ということで大変参考になりました。後から共同実施を始める利点はよその地区の「いいとこ取り」ができる、ということで、もっと勉強して共同実施を成功させたいと思います。そして自分がやって良かったと思うだけでなく、周りの人達にも理解してもらえるよう継続し、アピールしていく必要があると感じました。①
30代：福岡県ではＨ１８から共同実施のモデル地区をＨ１９から実施ということになってるがどういう形になるのか、まだ不安が残る。県立に比べ小中学校の事務職員の認知度が低いと思う。どうやってこれから存在をアピールしていけばいいか、考えなければと思います。⑥
40代：佐賀のアウトソーシングのことばかり考えていました。①
40代：事ム職員の方々の本音がきけて、大変良かったと思います。共同実施についても、本県１９年度が実施予定なので、大変参考になりました。討論がスムースにいき司会進行がとても良かったと思います。⑥
40代：難しいですね。お疲れさまでした。⑥
50代：県外の参加者も自由に意見を言えて良かった。共同実施についてたいへん参考になった。①
50代：これから、学校事務の共同実施がはじまるという時期に、この研修会に参加させていただいて、皆さまのいろいろなご意見を聞く事ができてとても参考になりました。ありがとうございました。⑤
50代：意見を１回は言わせてもらってよかった。討議資料は欲しかったです。佐賀の実践は勉強になりました。人数も適当だった。県外の人には発言させてもらってよかった。

その他コメント

県内

20代：近い未来事務職の必要性を保つことは大きな課題だと実感した。女性だけ、世代ごとの討論会の開催案はとても良いと思いました。
20代：佐事研大会を以前の１日講演会方式に戻して欲しい。討論会になるとベテランの事務長が大半を話し、若い事務職員が聞き役に回る。別に若い事務職にもっと話す機会を与えてくれと言ってるのではなく、討論内容が高度（知らない内容が多い）で話さないのではなく、話せないと思う。また、外部から講師を招いての講演の方が最新の情報や異なる考え方を吸収することができ有用と思う。
20代：はがくれ荘の場所に戸惑っている県外の方がいたのでマップをのせた方がよいとおもいます。
20代：討論会では、具体的な質問ではなく、議題が大きかったため、どのように答えればいいのか戸惑いました。
30代：昨年度までの「ただ座って聞くだけ」の研修から、全員参加型への移行が出来てきて、今後会員全員で盛り上げていける場になりうると思う。参加した会員全員が有意義な研修と思えるよう企画運営の方にはご尽力頂きたい。

30代：前回に続き、今日も勇気とやる気をいただきました。臨職ながら精一杯、出来る限りのことをがんばります。
30代：テーブルに名札があればよかった。（校名や、誰かわからず残念だった）
30代：分科会は一人一人全員で意見を言える機会があり大変充実していました。素晴らしいです。
30代：共同実施、共同実施とよく言うけど共同実施が先で、何をするかが後からついてきている。順番が逆。共同実施が始まってから何年もたつのに、これといった大きな成果がない。近いうちに成果がでなければ、２～３年後には共同実施自体が認められないようになるのではないかと思う。
30代：資料がすばらしいのでたくさんの情報が得られた。
40代：我々事務職員が生き残る道は現在のところ「共同実施」しかないのではないか（他にいい方法がない）。目に見える効果（学校が変わった、生徒がよくなった）が表れないところに「共同実施」に対するジレンマがあるのではないだろうか。
40代：縁あってはじめての参加です。はがくれ荘の場所を受付でたずねましたら、親切に地図まで書いて下さいましたが、全然違っていました（笑）。ものすご～く遠回りをして道をききながらやっとたどり着きました。昨日が代休で案内文書を学校に忘れてきた私が悪いのですが、案内図を大会資料にも載せて下さるか、受付に用意して下さるとよかったと思います。県外からの参加者もいらっしゃいましたので。
40代：午後からの分科会の時間が長いように思う。
40代：当校に赴任してきた先生が“こんな学校に私が保護者だったら行かせない”と４月に言われていました。そして１１月になって又事ム室で私に言われました。やはり地域・保護者から“あの学校に行かせたい”と言われる学校作りをしてゆく事が、義務制の任務だと思います。
40代：毎回思うのですが、大会の数日前に、事前に冊子等をいただきたい。そうすると、当日の大会の内容がよく理解できると思う。準備する側は大変だと思うのですが・・・。
40代：会員討論ではなく、講演がいい。
50代：年２回の大会は多いと思う。年１にしてその分実務研修をもっと増やしてほしいかも。
50代：研修会は事ムだけではなく県教委・校長等を助言者等に参加をしてもらい、学校事務を他の職種にみとめてもらう一つである。今回は全員討論の希望を入れてもらいありがとうございました。
50代：会員討論はお互いの顔が見れる机配置が良かったかな（コの字形、ロの字形）。
50代：共同実施の定着をすすめて、組織化と権限と責任体制を実現できる様願いたい。
50代：八女市郡・久留米市の方に参加してもらって良かった。このような形を他県の人達と行うのは大いに意味がある。
50代：講演会を聞きたかった。
50代：事務局の資料整備お疲れ様でした。有難うございました。

県外

20代：共同実施も鳥取ショックも職務標準表も結局は自分の身を守るだけのものかなぁと感じました。しかし、午前中にも言ってあったようにこの苦境をプラスに変えることで学校教育自体が今以上のものになると良い、また今以上にせねばならないと思いました。
20代：佐賀県のベテランの先生方は、自分の立場はもとより、若手の事務職員を育てようとする意思が感じられる。うらやましいと思った。
20代：今回は「今後の自分の仕事にどう取り組んだらいいか？」という課題に対し何らかの答えが出たらいいなと思い参加しました。はっきりとした答えはまだ出ていませんが、佐賀県の方々の前向きな姿勢を見る事が出来て参加して良かったと思っています。
30代：ベテランの方々の積極的な発言（活動内容の紹介等）は素晴らしかったです。次回も是非参加したいです。佐事研のレベルの高さに（一人ひとりの意識の高さ）驚き反省し、前向きに取り組んで行きたいと思います。
30代：子どものため、地域のための共同実施であればいいと思います。
30代：おつかれ様でした。
40代：全員討論資料が大変役に立ちました（役に立つと思います）。※お疲れ様でした。
50代：現在、事務職員がおかれている状況は非常にピンチの状況と思う。しかし、これをチャンスととらえ、前向きに前進していければ、新しい状況も生まれるのではないかと思う。

ピップエレキバンでメロンづくり～磁石の力で糖度・味アップ～

休日にガーデニングや家庭菜園を趣味と実益を兼ねて楽しまれている方もわりとおられるのではないでしょうか。職場や家庭で子供の成長を見ている楽しさに近いものが植物の成長についてもいえるのかもしれません。

岐阜県立岐阜農林高校の野菜部門ではメロン栽培にピップエレキバンを利用するというユニークな方法が取られています。きっかけは「肩こりに磁石が効くなら、メロンも養分の流れがよくなっておいしくなるの

では？」というある生徒の思いつきでした。

平成１２年の春に、一人の生徒の個人実験で、市販の磁気治療器具（「ピップエレキバン」）を貼り付けた栽培が行われました。成果を期待することもなく半信半疑で品質を確認したところ、意外に糖度が高く、ネットの盛り（メロンのしましまの模様）もよい傾向が出ていたそうです。

岐阜農林高校ではハイポニカＤ型という品種のメロンを水耕栽培していました。この品種は従来から「水っぽい」など品質についての問題があり、土耕栽培のメロンの品質にどのようにしたら近づけるか実験を繰り返していました。行ってきた実験の特徴は、メロンに直接、磁石を貼り付けるという方法です。試験栽培を重ねた結果、糖度・ネットの盛り・形・味が良くなり、品質のばらつきが少なくなったという効果が得られました。その後の実験では、①磁石の種類と形状（磁力の強さ、板状のものなど）。②貼り付ける部位と個数（根、茎、果汁）。③貼り付ける時期④土耕と水耕⑤違う種類の植物（スイカ、トマト等）。の比較が行われました。

今のところ水耕メロンに関しては、①磁力は弱くても効果が出る（８０ｍＴ程度の磁気ばんそうこう）。根の下にプレート磁石を敷く方法を試みたが効果については「？」であった。②貼り付ける部位は株元や果梗がよい。③早い時期に貼るとよい。④土耕栽培でははっきりした効果が認められないようだ。⑤水分を多く含む果実に効果があるのではないか？などの結果が出ています。岐阜農林高校の実習生産物販売所「のうじょう君」では、これらのメロンを「マグネットメロン」という名称で販売して好評を得ているようです。

ほんのちょっとした思いつきからスタートしたマグネットメロン栽培でしたが良い結果を残すことが出来たし、今後の研究でより幅広い面で応用が可能になるかもしれません。私達事務職員の仕事においても参考になるのではないでしょうか。

参考文献：現代農業２００５年１０月号（農文協出版）

油脂のバランス

油や脂肪と聞いてどのようなことを連想しますか？「体に悪い」、「肥満」など不健康なものではないでしょうか？もちろん、それも正しいのです。しかし、健康的なイメージでよく耳にするDHAも脂肪なのです。つまり、脂肪とひとことで言ってもいろいろあるのです。脂肪は以下のように分類することができます。

飽和脂肪酸		（動物性油脂、パーム油）
不飽和脂肪酸	一価不飽和脂肪酸	（オリーブオイル、キャノーラ油）
	多価不飽和脂肪酸	オメガ６系 (ひまわり種油、紅花油、大豆油)
		オメガ３系（魚油（DHA、EPA）、亜麻仁油）

※(　　) の中は主成分の油脂です

飽和脂肪酸は主に肉に含まれており、常温で固形なのが特徴です。牛や豚の体温は人間より高いので血液中でも液体なのですが、人間の血液中では凝固してしまうので、食べ過ぎるとどろどろ血液になってしまいます。不飽和脂肪酸は主に植物性の油です。三種類あるのは炭素の二重結合の数の違いで、常温では液体です。これらの脂肪にもビタミンなどと同様に一日の摂取目標があるのです。厚労省が五年ごとに発表している「日本人の栄養所要量」にビタミンなどと一緒に記載されています。そこでは脂肪の摂取量はエネルギーの総所要量の20～25％となっています。そして、望ましい摂取割合は下記のようになります。

飽和：一価不飽和：多価不飽和＝３：４：３　　オメガ６：オメガ３＝４：１

このように油の中でもバランスのよい摂取が必要とされているのです。特に多価不飽和脂肪酸（オメガ６とオメガ３）は体内で生成できることができないので必須脂肪酸と呼ばれ、細胞やホルモンをつくるためにとても重要なのです。オメガ３系の脂肪酸は、おもに魚のDHAやEPA、野菜（少量）で取っていましたが、現在は肉食化が進み昔ほど魚を取っていないためオメガ３系の摂取が足りないといわれています。オメガ６系は一般的な調理用油の含有率が高いので普通の生活で十分以上に摂取しています。よって、オメガ６/オメガ３が４以上になっていると思われます。この割合を忠実に守ることはできないでしょう。しかし、肉料理の数を減らし、魚料理を増やす。揚げる、炒める料理を減らし、茹でる、煮る、焼く料理を増やす。フッ素コーティングされているフライパンを使用する。このようなことを気に留めていたら目標とするバランスに

近づくでしょう。

参考文献　「食用油に危険がいっぱい」著者氏家京子

鉄道あれこれ話

事務職員の皆さんは、今旅費の請求とかで時刻表のお世話になってますね。仕事以外にも旅行の計画とかで利用する機会もあると思いますが、単に時刻表を眺めるだけでも勉強になることがあったり興味をひくことを見つけたりします。そこで列車を運行するプログラム（列車ダイヤ）で幾つか気付いた事を書きたいと思います。

列車の加速度と列車ダイヤの関係について・・・現在列車の種類には速い順に特急、急行、普通、あと動力別に電車（かもめ号など）、ディーゼルカー（唐津線で走っている）、それに寝台列車などの機関車の引っぱる客車に分かれます。列車の最高速度は特急で何キロ、普通で何キロと決まってますが、駅から出発する時の加速は出力が高い順に電車、ディーゼル、客車の順になり、これが結構列車を運行する上での妨げになってるんです。今この辺を走っている寝台特急は１台の機関車が十何両もの車両を引っ張ってるので負担が掛かり、出だしの加速はかなりのろいです。なんでも今の特急で４０年前の普通電車より加速は遅いくらいですからかなりの差があります。実際に線路を走らせてみると加速減速の素早い電車なら通過するだけの先発の寝台特急との到達時分が段々接近してきてついには並んでしまうそうです。これが本線でしかも首都圏のように過密ダイヤになると後続の急行、普通に次々に追いつかれる現象が起こりえます。じゃあ寝台も全部電車にしたらいいじゃないかと思いますが電車はモーターの音がうるさくて寝台には向かないんです。それでは実際にダイヤのやりくりをどうしてるのかというと時刻表を見たら運転本数の多い東海道や山陽などの本線では寝台特急の走る時間帯をある一定のゾーンに集中させて発着の順序を追いつかせないよう昔から工夫をしてました。行き先は違っても途中までずっと一緒なので何でもう少し時間をばらして振り分けられないのだろうかと思ってましたがこのような事情があったのです。以前は寝台列車の本数も多く東京駅や上野駅では１０分おきとか１５分おきに寝台列車が発車し、私は東京駅のホームで同じ色した列車が何本も停車してあわてて乗ったら乗り間違えてしまって検札にきた車掌さんから「次の横浜で乗り換えて下さいよ」と言われた経験がありました。よく、ミステリー小説「寝台特急○○号殺人事件」なんかで「真犯人は１５分後に発車する後続の○○2号に乗り換え、さも○○1号に乗車してるかのようなアリバイを作り・・」といった話も同じ客車どうしの列車を一定時間に走らせる理由からによるものです。長距離の電車やディーゼル、それに客車が同じ本線を走っていた時代はダイヤの組み方がとても難しく、しかも特急・急行‥普通という速さの序列は守らなければならないんですが、自然災害なんかで一度ダイヤが乱れてしまうと客車の特急は後回し？にして長時間の臨時停車をさせ、後続の通勤の普通電車を先に行かせる逆転現象も過去にありました。現在全国的に電車が普及してしまいディーゼル車も短距離のローカルが主になり残るは長距離の寝台特急が列車ダイヤに影響するだけとなりましたが、現状から言うと寝台特急は航空機などに押されて乗客が少なくなってしまい、最近何十年間走ってきた伝統ある列車が次々に廃止されました。乗客が少ない運営面からの理由もあるんでしょうが、特急と急行・普通の速さの序列を守るのが難しい客車ですから運行面からしても加速減速の問題を改善するか、客車を電車に置き換えるとかしない限り遠からず寝台特急は全廃される事になるだろうと思います。

このように列車ダイヤを組むにしてもこの他線路の状況（登り坂下り坂とか）、単線複線の違いとかで（単線なら上り下りの行き違いの場所を組まなければならない）ダイヤを組むのに影響がでると思います。私たちは毎日鉄道を何気なく利用しておりますが、経営者側にとっては列車を運行するのもいろいろ制限があって悩ませられるのではないでしょうか？

それでは皆様良いお年をお迎えください。

調査広報部一同